

# こもれびの森通信 5 2014 月号

発行 宮城県こもれびの森 森林科学館  
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330  
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



## イベント報告

こもれびの森ウッドランドクラブ  
早春の自然観察と小鳥の巣箱作りに挑戦!

4月27日、春一色のこもれびの森に元気な声が響き渡りました。今年最初のウッドランドクラブ『早春の自然観察と小鳥の巣箱作りに挑戦』です。家族で力を合わせてシジュウカラの巣箱作りを楽しみました。ねじ回しを回さず自分が回って



いる男の子、巣箱にデコレーションを施す女の子、同じ材料でも家族それぞれいい巣箱が仕上がりました。昼食は暖かい汁物と焼き立てピザで大盛り上がりでした。

さくら幼稚園卒園生来館



また毎春、科学館に来館いただく元気一杯のさくら幼稚園卒園生、新一年生の皆さん70名も同じ日に来館下さいました。クラブト、自然散策、館内見学を楽しみ、芝生でお弁当タイム。和男さんの竹トンボやぶんぶんゴマをおみやげに大喜びでした。来年またお会いしましょう！（小林）

## こもれびの森の かわいいことりたち

“春本番” がやってきた

こもれびの森サポーターで  
専属ことりカメラマン(?)  
の大友さんのコーナーです

こもれびの森に春の到来を告げる小鳥たちが華やかなさえずりを響かせながら舞始めました。ウグイスは舞台裏での練習を終え、木々の梢できれいな声を響かせています。オオアカゲラがやってきました。豊富な食事に満足げな顔をしています。溪流ではカワセミの動きが活発です。つがいで行動していますので子育ての時期かもしれません。カルガモもつがいでいました。そっと近づいたつもりですが速い流れに乗って逃げていきます。幸運に恵まれれば、道端の溪流を覗くと出会えるかもしれません。科学館内の湿性植物園にも飛来することもありますのでお楽しみに！（大友）



ウグイス



アカゲラ



カワセミ



カルガモ

## ミツケ! こもれびの森 こもれびの森でみつけたよ 「アブラコゴミ」

今回の執筆者は、  
山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんです。

こもれびの道につながる林道脇にアブラコゴミの群生地があります。10数年くらい前は一部の山菜マニアが日参した所ですが、今は訪れる人はいなくなりました。アブラコゴミは赤コゴミ、一本ずつ出るから一本コゴミとも呼ばれています。標準名はキヨタキシダ。

油っこくてショキショキとした歯応えがして、コゴミよりも数段美味しく、コゴミは食べないがアブラコゴミなら食べるという人もいます。宮城県人がコシアブラの美味さを知ったのは、山形の人が食べているのを知ってからだそう。最近、アブラコゴミが山形の店頭に並ぶようになってきました。はたしてアブラコゴミもコシアブラに続くことになるでしょうか？(は)



アオコゴミもあるからややこし



コゴミと違って目立たない

## まめちしきコーナー

花や木などの  
ちょっとした知識

## 植物の武器～「アレロケミカル」～



セイタカアワダチソウ

植物が化学物質（アレロケミカル）を放出し、他の植物の成長を抑えたり、特定の動物を引き寄せたりする効果のことを「アレロパシー」（他感作用）と呼びます。この物質は、葉や根や落葉からも放出されます。「クルミ」や「サクラ」の木の下に、雑草が生えにくいことは、昔からよく言われることですが、クルミは「ジュグロン」、サクラは「クマリン」を放出し、他の植物の成長を抑えようとします。「セイタカアワダチソウ」が、短期間に大繁殖するのも強力な「アレロケミカル」を放出し、他植物を圧倒するからです。しかし、この物質は蓄積して自らにも降りかかり、やがて自分の発芽も抑制してしまいます。この現象は、農作物の「連作障害」の原因の1つと考えられています。

植物の世界も、生き延びるために大変らしい・・・。（千葉）

## 雑記

「左保姫（さぼひめ）の染めゆく野へはみどり子の袖もあらはに若菜つむらし」。春の女神である左保姫が明るい色に染めていく原野、そこでは子どもらが袖をたくしあげて若菜を摘んでいるようだという順徳院の歌である。【平成26年2月28日毎日新聞「余祿」より抜粋】  
▼ここ花山では新芽が葉や花になり、日に日に大きく色鮮やかになっているこの頃です。森林科学館は4月1日に開館し皆さまのご来館をお待ちしていましたが、このところお天気にも恵まれ大勢の方々に来館して頂いております。これからも皆さまの憩いの場となるよう職員一同心がけて運営して参りますので、ぜひお気軽にご来館ください。（山本）